JA 全農ちば
営農情報集

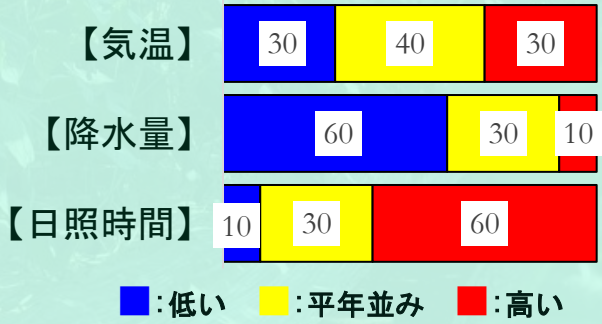
2026 年
2月

今月の情報

Ⅰ.　８年産水稲栽培　種子消毒時の注意点について
Ⅱ.　園芸野菜　病害虫防除情報
Ⅲ.　土壌診断のススメ
Ⅳ.　安全な農作物生産の取り組みについて

今月の気象（気象庁１/２９発表　１か月予報より）

平年と比較し、降水量が少なく、
日照時間が多くなる見込みです。
気温が下がると低温障害、
暖かくなると害虫が発生するため、
圃場を良く確認しましょう。



注意とお願い

農薬登録内容は掲載時点の情報です。農薬を使用する際に必ず最新の登録内容をご確認ください。

※ 本資料の無断使用・複写・転載を禁じます。JA全農ちば営農支援課

営農情報　　令和８年２月

8年産水稲栽培　種子消毒時の注意点について

～良質な米づくりは良質な育苗から～

ＪＡ全農ちば　営農支援課

1. はじめに

今年も水稲栽培に向けた準備の時期が到来します。７年産の水稲育苗では、芽が揃わない、出芽が遅い、出芽しない等の事例が県内各所でありました。

良質な苗を生産するため、発芽を揃え、イネばか苗病や細菌性の苗立枯病など種子伝染性病害にしっかり備え、薬剤による種子消毒を中心に対策しましょう。

まずは、前作の籾殻残渣等を片付け、作業場の整理整頓や資材の洗浄を行い、育苗作業に臨みましょう。

2. 種子伝染性病害

種子伝染性病害とは、種籾の周りや内部に侵入した病原菌が育苗箱中に発生する病害です。

（1）イネばか苗病

・茎葉が異常徒長し、黄化する。
・根数は少なく、引き抜くとピンク色のカビが付着している。
・発病した苗を移植しても、その後枯死する。
・発病条件：密播、育苗期の高温・多湿
※採種圃では最重要病害の一つです。採種圃周辺を含め、徹底防除に努めましょう。

イネばか苗病（写真左側の苗が罹病株）

（2）もみ枯れ細菌病

・出芽時に発病すると細く湾曲して、アメ色に変色腐敗する。
・緑化期以降に発病すると、新葉がねじれ部分的に白化する。
・発病苗は、地際部が腐敗して新葉が抜けやすくなる。
・坪状に発生し、悪臭を放つ。
・発生条件：土壌の高 pH、育苗期の高温・多湿

もみ枯れ細菌病

※　本資料の無断使用･複写･転載を禁じます　JA全農ちば　営農支援課

（３）苗立枯細菌病

・初期症状は、展開中の第２葉の基部から白化する。
・後期症状は、水分不足でしおれたようになり、葉は赤褐色になって乾燥枯死する。
・発病苗は腐敗せずに抜けにくい。
・初めは坪状に発生し、その後帯状になる。
・発生条件：育苗期の高温・多湿
※もみ枯れ細菌病とともに、発生後に有効な薬剤防除が出来ません。
　予防に努めましょう。

苗立枯細菌病

3. 種子消毒の方法

種子消毒は効果の高い化学農薬を使用しましょう。

（１）ヘルシードＴフロアブル、テクリードＣフロアブルを使った種子消毒

ポイント

・希釈倍率：200 倍、浸漬時間：24 時間
・種子 1kg に対して薬液 2L を用意し浸漬する（容積比１：１以上　下表参照）。
・浸漬時の水温は 10～15℃を目安に実施する。極端な低温や高温は薬剤の効果不足・薬害と相まって発芽不良になりやすい。
・種子袋はゆすりながら薬液に浸す。浸漬中に種子を 2、3 回撹拌する。
・消毒後は、半日～1 日程度陰干し（風乾）し薬剤付着率を高める（ヘルシード T は必ず）。

表）浸漬時の使用薬量と水量

希釈倍数	種もみ量	4kg	10kg	20kg	40kg
200 倍	薬量	40ml	100ml	200ml	400ml
	水量	8L	20L	40L	80L

※　本資料の無断使用･複写･転載を禁じます　JA全農ちば　営農支援課

営農情報　　令和８年２月

園芸野菜　病害虫防除情報

ＪＡ全農ちば　営農支援課

１. はじめに

２月は晴れの日が多くなる見込みですが、気温が低くなる日もあります。低温による凍霜害等に注意しましょう。また、暖かくなってくるとアブラムシ・コナジラミ類等の害虫が徐々に発生し始めるので、圃場の確認をしっかり行いましょう。

２. ジャガイモ（種いも消毒、圃場準備）

（１）種いも準備

ア．種いもが届いたらすぐに開封しましょう。割れたり傷がついたりしないように扱いましょう。

イ．通気の良い、高温にならない場所に保管しましょう。湿気がこもらないよう、ビニールシート等は被せないでください。

ウ．合格証票は事故処理に必要ですので、栽培終了まで大切に保管しましょう。

（２）種いも消毒（そうか病、黒あざ病対策）

種いも切断と併せて行いましょう。種いも切断は植え付け１～２日前に 40g を目安に、２～３個の芽が残るよう切断しましょう。腐敗防止のために、切断後は日陰で切り口を乾かしてください。

ア．粉衣処理の場合（種いも切断<u>後</u>に処理）
バリダシン粉剤ＤＬ：種いも重量の 0.3%を粉衣する。種いも 20kg であれば 60g。
（植付前・黒あざ病で登録）

イ．浸漬処理の場合（種いも切断<u>前</u>に処理。切断後、萌芽後では薬害のリスクあり）
アタッキン水和剤　：40 倍液に 5～10 秒間種いも浸漬を行う。また処理後は風通しの良い場所で乾燥させる。（植付前・黒あざ病、黒あし病、そうか病で登録）。

（３）圃場防除薬剤（そうか病、粉状そうか病対策）

ア．土壌消毒剤
【ポリ・ビニールで被覆し、十分な被覆期間を置く。クロルピクリン剤は被覆必須】
①クロルピクリン剤（クロールピクリン等）：１穴　2～3ｍｌ（圃場）
②ガスタード微粒剤（バスアミド微粒剤）　：20～30ｋｇ/10a・植付 21 日前まで

イ．土壌処理殺菌剤　【粉状そうか・そうか病登録】
①フロンサイド粉剤：30～40ｋｇ/10a・植付前・全面土壌混和・１回
②ネビジン粉剤　　：60ｋｇ/10a・植付時・全面土壌混和・１回

※ 本資料の無断使用･複写･転載を禁じます JA全農ちば 営農支援課

3. イチゴ

（１）アザミウマ類

今後、アザミウマ類の発生が多く予想されています。イチゴでは主にヒラズハナアザミウマが発生し、花部を中心に寄生します。果実表面を食害されると表面のツヤが無くなり、硬化してしまいます（下写真参照）。成虫は100個前後産卵し、サナギになると一度土中に潜り込み、成虫になると地上へ出てきて１か月以上生存します。早期発見に努めて、発生初期からのローテーション防除を行いましょう。

ヒラズハナアザミウマ成虫

食害により硬化した果実

〇イチゴ　アザミウマ類　防除薬剤　　注意：天敵への影響日数については別途ご確認ください

IRACｺｰﾄﾞ	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数
4A	モスピラン顆粒水溶剤	2000	収穫前日まで	２回以内
5	スピノエース顆粒水和剤	5000		２回以内
	ディアナＳＣ	2500～5000		２回以内
30	グレーシア乳剤	2000		２回以内

（２）ハダニ類

ハダニ類はイチゴの葉裏で汁を吸い、葉を黄化・枯死させ、生育や収量に大きな被害を与えます。ハウス栽培イチゴでは、休眠性を有するナミハダニ、カンザワハダニはどちらも２月頃に休眠から離脱します。２月下旬から発生が増加するので、初期防除を徹底しましょう。乾燥した環境で増えやすいため、湿度管理や適度な散水、換気を徹底することも基本的な予防策です。また、雑草や作物残渣はハダニ類の発生源となるため、早めに除去することが重要です。生物的防除では、チリカブリダニやミヤコカブリダニといった天敵を活用することで効果的に抑制が可能です。発生が進行した場合には、抵抗性がつかないようローテーションで化学農薬を散布しましょう。

ナミハダニ　成虫

カンザワハダニ　卵、成虫

ハダニが発生している葉

〇イチゴ　ハダニ類　防除薬剤

IRAC ｺｰﾄﾞ	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数
20B	カネマイトフロアブル	1000～1500	収穫前日	１回以内
20D	マイトコーネフロアブル	1000		２回以内
25B	ダニコングフロアブル	3000		１回以内
33	ダニオーテフロアブル	2000		２回以内

※　本資料の無断使用･複写･転載を禁じます　JA全農ちば　営農支援課

4. イチゴ　うどんこ病

イチゴのうどんこ病は、はじめ葉裏から発生することが多く、感染が拡大すると葉表や葉柄、果実にも被害が及びます。菌の活動適温は20℃前後で、乾燥と多湿の繰り返しを好み、水滴は胞子を破裂させ、感染を広げます。胞子の発芽適温は 17～20℃前後で、空中を飛散して広がります。開花結実期に発病すると被害が大きくなるため、予防主体の徹底した防除を行いましょう。

葉および果実に発生したうどんこ病

○イチゴ　うどんこ病　防除薬剤

FRAC ｺｰﾄﾞ	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数	備考
3	トリフミン水和剤	3000～5000	収穫前日まで	５回以内	予防・治療
50	クロスアウトフロアブル	3000～4000		３回以内	治療
M7	ベルクートフロアブル	2000～4000		５回以内	予防
7	ケンジャフロアブル	1500		３回以内	予防
9	フルピカフロアブル　※1	2000～3000		３回以内	予防
9+U13	ショウチノスケフロアブル ※1	2000		２回以内	予防・治療

※1　フルピカとショウチノスケは同成分を含むため成分総使用回数に注意（合わせて３回以内）

5. キュウリ　うどんこ病

キュウリのうどんこ病は、主に葉に発生します。葉面にうどんこを撒いたように、白いカビを生じ、病勢が進むと葉全体が汚白色の菌体で被われ、激発すると枯れます。

菌の活動適温は 20℃前後で、乾燥と多湿の繰り返しを好み、水滴は胞子を破裂させ、感染を広げます。胞子の発芽適温は 17～20℃前後で、空中を飛散して広がります。予防主体の徹底した防除を行いましょう。

葉に発生したうどんこ病

○キュウリ　うどんこ病　防除薬剤

FRAC ｺｰﾄﾞ	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数	備考
3	トリフミン水和剤	3000～5000	収穫前日まで	５回以内	予防・治療
M7	ベルクートフロアブル	2000		７回以内	予防
7	ケンジャフロアブル	1500		４回以内	予防
9	フルピカフロアブル　※1	2000～3000		４回以内	予防
11	アミスター20 フロアブル	1500～2000		４回以内	予防・治療
9+U13	ショウチノスケフロアブル ※1	2000		２回以内	予防・治療

※1　フルピカとショウチノスケは同成分を含むため成分総使用回数に注意（合わせて３回以内）

※　本資料の無断使用･複写･転載を禁じます　JA全農ちば　営農支援課

6. コナジラミ類（苗床:トマト・キュウリ）

近年、県内でコナジラミ類が媒介するウイルス病（トマト：黄化葉巻病、ウリ科：退緑黄化病）の発生が見られます。育苗～定植までに発生すると被害が大きくなりますので、初期防除を実施しましょう。

（１）耕種的防除

ア．コナジラミ類は風により飛来してきますので、防虫ネットを展張しましょう。天窓への展張も必要です。0.4mm 目合いが効果上は望ましいですが、通気性が低くなるため、全面に展張できない場合は風上や入り口側に使用する方法も有効です。

イ．施設内および周囲の雑草除去を行いましょう。また、ハウス付近では花き等の害虫が集まりやすい作物の栽培は避けましょう。

ウ．育苗期～定植初期における粒剤または潅注処理剤による防除を実施しましょう。主にネオニコチノイド系かジアミド系の薬剤、またはそれらの混合剤が有効です。
登録によりますが、使用時期は①育苗期後半（鉢上げ後など）⇒定植段階での２回処理、②定植段階の１回処理のパターンがあります。過去に発生があった等、重点的な防除が必要な場合は２回の処理を選択しましょう。各薬剤は根から薬剤成分が吸収され、効果を発揮しますので、粒剤は土壌水分に、潅注処理は吸収されるまでの時間が確保できるようにそれぞれ注意しましょう。

（２）コナジラミ類登録があり、果菜類で育苗～定植までに選択可能な主な粒剤・潅注処理剤
※登録詳細は作物ごとにご確認をお願いいたします。

IRAC コード	薬剤名（剤型略）	備考	用途		登録の有無※	
			粒剤	苗潅注	トマト	キュウリ
4A	スタークル粒剤	コナジラミ対策の主要剤	○		有	有
	ベストガード粒剤		○		有	有
	モスピラン粒剤		○		有（定植段階）	無し
28	プリロッソ粒剤オメガ	同じ成分。散布剤はベネビアとして販売	○		有	有
	ベリマーク SC			○	有	有
4A＋28	ミネクトデュオ粒剤	プリロッソ＋アクタラ	○		有（鉢上げ時～育苗期後半）	有（鉢上げ時～育苗期後半）

※定植段階は、定植前日・当日・直前等の定植作業に合わせて使用する登録のみを持つことを示す

※　本資料の無断使用･複写･転載を禁じます　JA全農ちば　営農支援課

営農情報　　令和８年２月

土壌診断のススメ

～土壌診断結果をもとにした「土づくり」と「施肥」を始めましょう～

ＪＡ全農ちば　営農支援課

1. はじめに

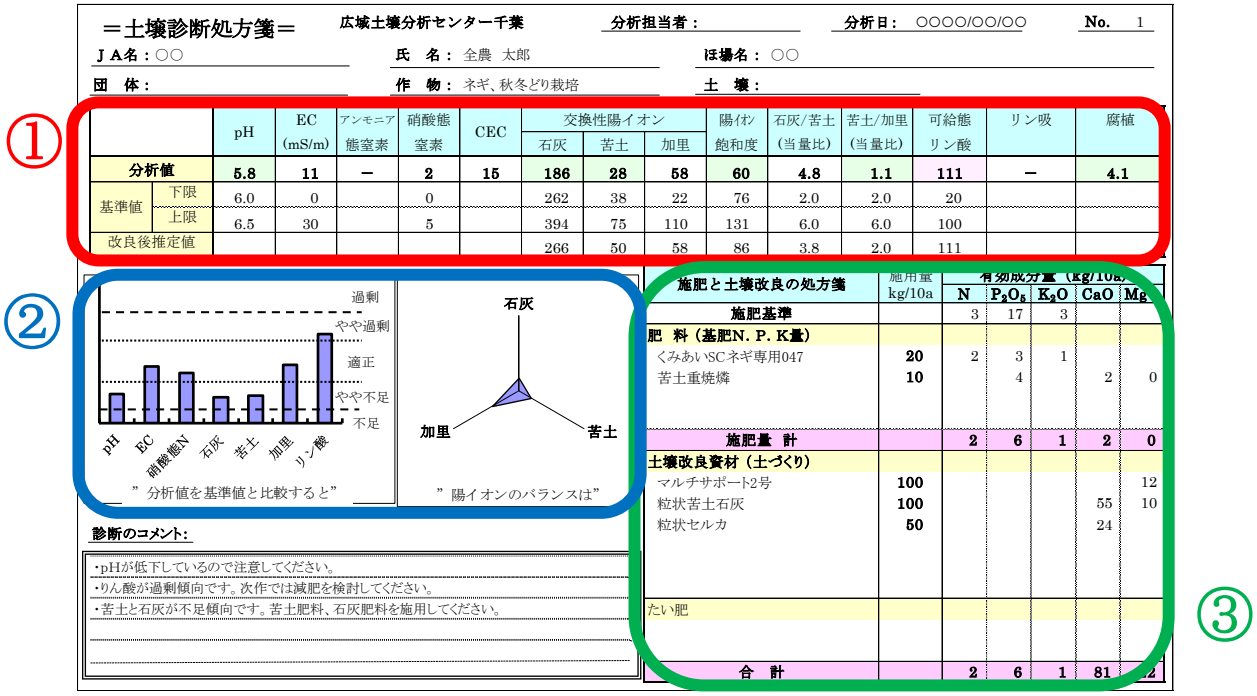
作物は土壌中の養分が多すぎても、少なすぎても健康には育ちません。そのため、土壌の養分状態の良し悪しを作付け前に判断し、次作の施肥に反映させることが重要です。

土壌診断は「土の健康診断」であり、今の土壌の養分状態を正確に把握することができます。

2. 土壌診断の活用方法

土壌診断には、「施肥コストの最適化」や「養分の欠乏症、過剰症を未然に防ぐ」などの様々な効果があります。しかし、土壌診断を最大限に活用するためには分析結果を正しく読み取り、適正な資材を適正な量だけ施用することが大切です。ＪＡ全農ちばでは、分析データをもとにおすすめの資材等を記載した処方箋を作成しております。全農で取り扱いの肥料銘柄であれば資材指定も可能です。ぜひ適正施肥にご活用いただければと思います。

【園芸用処方箋レイアウト】



① 上段の「分析値」が土壌分析結果、中段の「基準値」は千葉県が定める指定した作物の基準値の上限と下限の範囲、下段の「改良後推定値」は③の土づくり資材を施用した後の土壌養分量の推定値になります。「分析値」が下限値よりも不足している場合は緑色、過剰な場合は赤色に色が変わります。

② 分析結果を可視化したグラフです。

③ 分析結果をもとにおすすめの基肥資材と土づくり資材を記載しています。

※　本資料の無断使用・複写・転載を禁じます　JA全農ちば　営農支援課

3. 土壌サンプルの採取方法

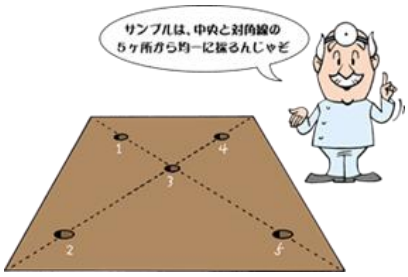
（1）土の取る場所と時期

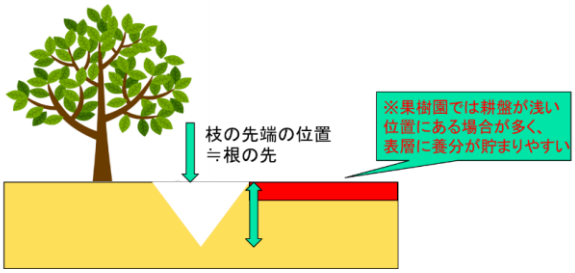
圃場内中央と対角線の５か所の地点から採ります。養分流出のしやすさの差や肥料の散布ムラ等の影響で同一ほ場内でも養分含有量が異なる場合も多いため、正確な分析結果を出すためには必ず複数地点から採取するようにしてください。採取時期は収穫後、次作の作業に入る前に行います。

（2）土の取り方

表土１～５cm 程度を除いてから、深さ 20cm ぐらいまでの作土層を均一に移植ゴテで採ります。採取後は他地点の土壌と合わせて均一にします。十分な乾燥後に土壌診断用サンプル袋へと入れてください。(サンプル袋等は最寄り JA へお問い合わせください)

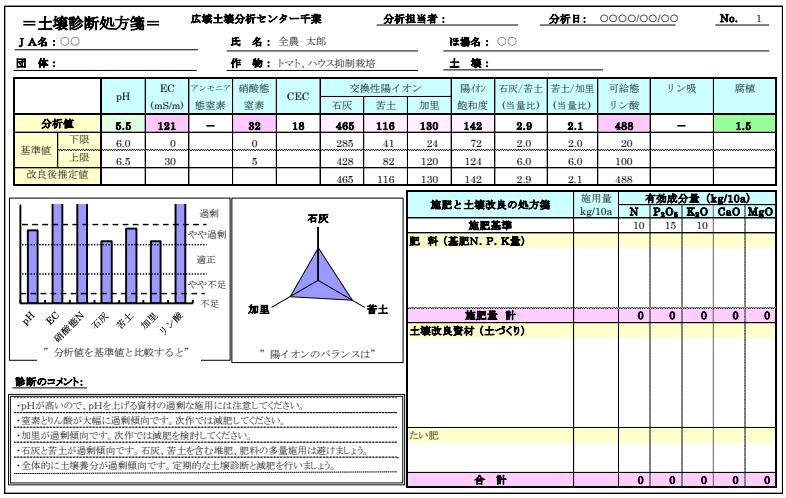
※果樹園の土壌を採取する場合は枝の先端がある位置から土壌を採取してくだい。





4. こんな課題を持った農家の方も…

【抑制トマトの処方箋】



＝土壌診断処方箋＝　広域土壌分析センター千葉　分析担当者：　分析日：○○○○/○○/○○　No. 1

ＪＡ名：○○　氏　名：全農 太郎　ほ場名：○○

団　体：　作　物：トマト、ハウス抑制栽培　土　壌：

		pH	EC (mS/m)	アンモニア態窒素	硝酸態窒素	CEC	交換性陽イオン 石灰	苦土	加里	陽イオン飽和度	石灰/苦土 (当量比)	苦土/加里 (当量比)	可給態リン酸	リン吸	腐植
分析値		5.5	121	－	32	18	465	116	130	142	2.9	2.1	488	－	1.5
基準値	下限	6.0	0		0		285	41	24	72	2.0	2.0	20		
	上限	6.5	30		5		428	82	120	124	6.0	6.0	100		
改良後推定値							465	116	130	142	2.9	2.1	488		

施肥と土壌改良の処方箋	施用量 kg/10a	有効成分量 (kg/10a) N	P_2O_5	K_2O	CaO	MgO
施肥基準		10	15	10		
肥　料（基肥N. P. K量）						
施肥量　計		0	0	0	0	0
土壌改良資材（土づくり）						
たい肥						
合　計		0	0	0	0	0

診断のコメント：

・pHが高いので、pHを上げる資材の過剰な施用には注意してください。
・窒素とりん酸が大幅に過剰傾向です。次作では減肥してください。
・加里が過剰傾向です。次作では減肥を検討してください。
・石灰と苦土が過剰傾向です。石灰、苦土を含む堆肥、肥料の多量施用は避けましょう。
・全体的に土壌養分が過剰傾向です。定期的な土壌診断と減肥を行いましょう。

【課題①　硝酸態窒素が過剰】

硝酸態窒素が過剰だと食味の低下や樹ぼけの症状が起こり、品質・収量が低下してしまいます。また、高温対策のためには少量多潅水の水管理が重要ですが、このような状態の土壌で潅水を行うと肥料分を大量に吸収してしまい、樹勢のコントロールが難しくなってしまいます。

【課題②　可給態リン酸が過剰】

リン酸は過剰症が発生しづらい養分ですが、施肥コスト削減のために施肥の見直しをしましょう。

5. さいごに

土壌はバランスの悪い施肥設計を１、２年続けても、生育に急激な変化をもたらすことは少ないですが、一度悪化してしまうと正常に戻すまでに長い時間を要します。ぜひこの機会に土の健康診断を始めませんか。お気軽に最寄りＪＡまでお問い合わせください。

※　本資料の無断使用･複写･転載を禁じます　JA全農ちば　営農支援課

営農情報

令和８年２月

安全な農作物生産の取り組みについて
～堆肥の管理方法～

ＪＡ全農ちば　営農支援課

１．腐熟促進のポイント

腐熟は微生物による発酵を促進させることが重要です。

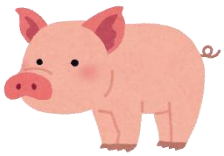
（１）　水　　分：水分が過剰だと発酵が進みにくいため、もみがら・おがくず等で調整します。

（２）　切り返し：均一な腐熟と好気性発酵を進めるために、切り返しはできれば週１回、最低でも月に１回は実施しましょう。

２．腐熟度の確認

（１）期　　間：３回以上切り返した後、２週間程度堆積します。

（２）温　　度：内部温度 55℃以上で３日間継続していることを確認します。雑草種子対策のためには 60℃以上が目安です。ただし、実際の堆肥内部の温度は中心部で 75℃、表層部で 30℃と差が生じているため、継続した切り返しと堆積を行いましょう。



（３）臭　　い：十分に腐熟すると原料の家畜ふんの臭いはほぼ無くなります。

（４）色・感触：色は褐色から黒褐色になり、手触りがさらさらになります。

（５）購入堆肥：作業負担や周辺環境への考慮から購入堆肥を利用する場合、上記の点を守って製造された堆肥かを入手元へ確認しましょう。

３．家畜ふん堆肥の保管について

堆肥の製造中は周辺環境を汚さないように注意しましょう。降雨によって堆肥が圃場・栽培施設・水路等へ流出することや、強風による堆肥・臭いの飛散などが考えられます。

（対策１）降雨・強風

屋根のある堆肥場、シートで覆うなどの雨風の影響を受けにくい保管状況への改善

（対策２）排水・排汁

まずは堆肥保管場所周囲の状況を確認し、堆肥からしみ出した排汁がどのように流れていくかを把握しましょう。周囲への流出を防止するため、溝を切るなどして排汁が広がらないように管理しましょう。横方向だけでなく、地下への浸透も起こりうるため、保管場所の底はコンクリート等で整備されていることが望ましいです。

【農林水産省 HP にて各種情報が掲載されています】

☆野菜の衛生管理に関する情報

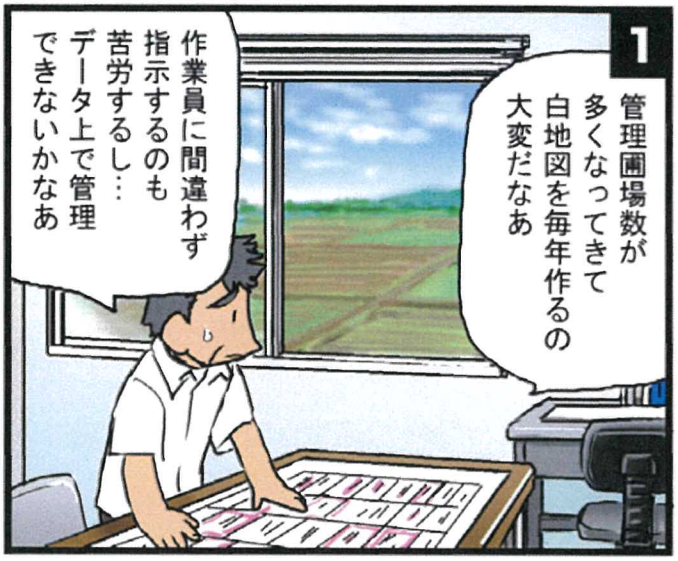
＜リンク先＞https://www.maff.go.jp/j/syouan/nouan/kome/k_yasai/

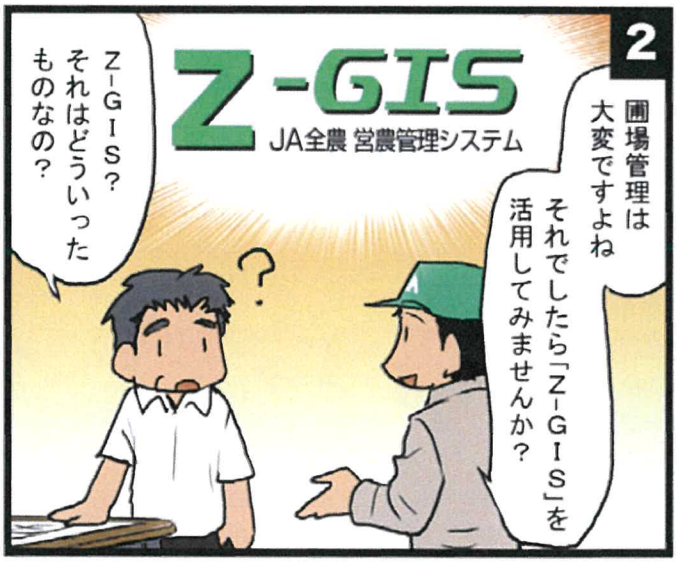
☆家畜排せつ物法とは

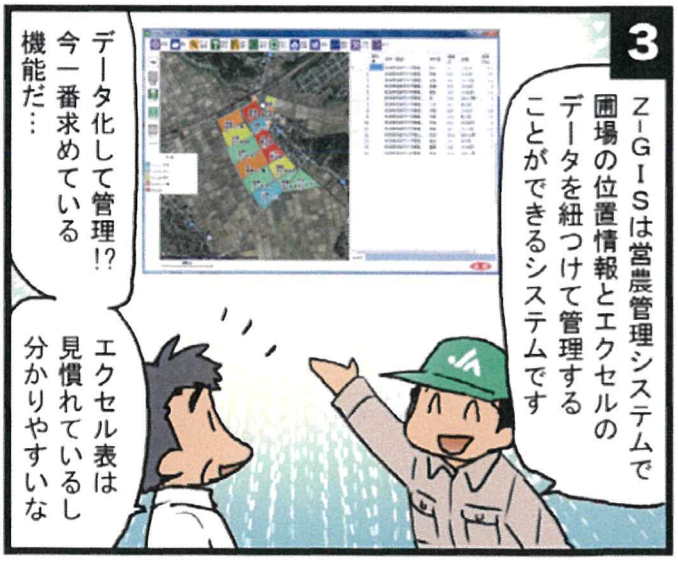
＜リンク先＞https://www.maff.go.jp/j/chikusan/kankyo/taisaku/t_mondai/03_about/

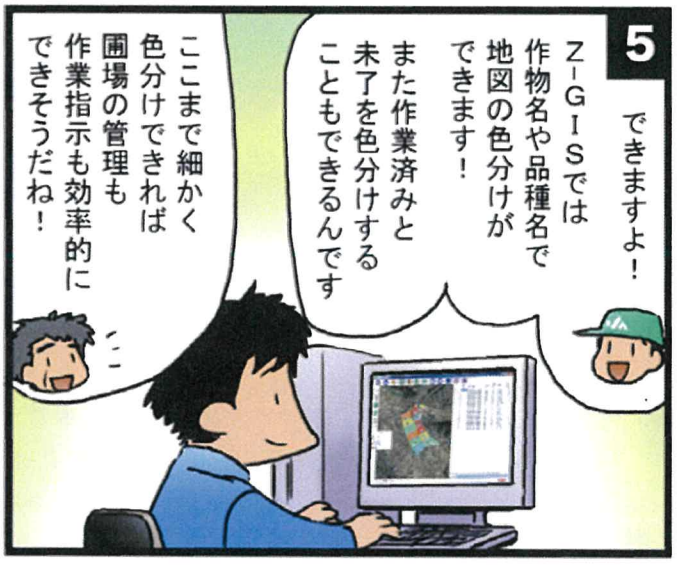
※　本資料の無断使用･複写･転載を禁じます　JA全農ちば　営農支援課

圃場管理ならお任せあれ！
スマートフォンに表示可能
営農管理の強い味方！Z-GISのご紹介☆









●営農管理システム「Z-GIS」のお問い合わせは

一般社団法人　農協協会　Z-GIS管理部　TEL.03-3639-1125

JA全農　耕種総合対策部　スマート農業推進課　TEL.03-6271-8274

https://z-gis.net/99/

今ならお得なチャンス！

はじめようスマート農業キャンペーン

日々の作業を
効率化しませんか？

2025年12月1日▶2026年3月31日

営農情報を地図で可視化！

Z-GIS
全農 営農管理システム

キャンペーン期間中、ご希望の方は

レイミーの AI病害虫雑草診断 スマートフォン用アプリ

との連携機能もご利用いただけます！

※Z-GIS既存会員の方も新たにレイミーオプションに加入する場合は、初回に限り4か月目まで無料で活用できます。

入会者（新規のみ）

利用料 ご加入月から4カ月目末日まで 無料

例：2月15日申込の場合、5月末までの利用料が無料

※キャンペーン中はレイミー連携機能もご利用いただけます

申込みやレイミー連携の詳細はホームページから！

Z-GIS 初級者向け WEB講習会開催

1月から開催予定！メールでご案内

キャンペーン期間中の入会者向けZ-GISの初級WEB講習会を開催

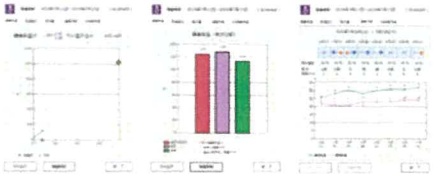
1月20日、2月5日、2月17日 ※すべて16:00～ 1時間

Z-GIS 全農 営農管理システム でできること

1 管理項目別に色分けや抽出が可能！

2 管理項目を地図上に表示！

3 1㎞メッシュ気象情報を確認可能！



4 スマホからも簡単入力可能！

利用料金は、100圃場ごと月額220円(税込) 費用を抑えて圃場管理が始められます！

【お問合せ】JA全農耕種総合対策部スマート農業推進課 TEL03-6271-8274 ✉zz_zk_smart@zennoh.or.jp

JAグループ 全農